

留学先国名 : ドイツ

留学先学校名 : Ruprecht Karls Universität Heidelberg

留学期間 : 平成 28 年 10 月 1 日 ~ 平成 29 年 7 月 31 日

私は約一年間、夏semester、冬semesterとドイツで過ごしました。授業は留学生向けに数多く開講されており、レベル別の語学コース、文法、語彙の授業を受けました。生のニュース番組や新聞など時事的なテーマを用いて解説、議論が行われ、ドイツの政治、社会問題に関心を持ちました。同時に自国のことにも以前より目が向くようになり、日本が抱える問題、現在の政治の状況などについて再度考えるきっかけになりました。

語学コースでは世界各国からの留学生と知り合い、仲良くなることができました。優しい人が多く、これまであまりなじみのなかった国の魅力を多く知り、ドイツ以外の様々な国にも強く興味を持ちました。戦後のドイツ経済の仕組み、精神文化学、作家の授業なども現地の学生と一緒に受けました。どの授業も教授と学生とのやり取りが活発で、学生が常に手を挙げ、指名してもらおうと待っている状態がよく続いていました。この経験から、日本での授業の雰囲気や私自身のこれまでの授業態度との違いを感じ、刺激を受けました。また私は講義形式の授業を多めにとっていましたが、セミナー形式でより少人数になると発言がさらに活発になり、学生が授業を作ると言われる理由がよく分かりました。

日本学研究科の授業も聴講に行き、日本語の小説や政治的な批評文をドイツ語に訳しました。日本学の学生たちは忘年会や夏祭り、花見、ゲーム、カラオケ大会など日本的な行事をよく企画しており、日本の文化をドイツでも楽しんでくれていることを嬉しく感じました。またドイツの行事、慣習など、例えば大晦日や魔女狩り、ビールの飲み方なども紹介してもらい、大変良い経験となりました。

お互いの言語を教え合うタンデムパートナーとは、課題を添削し合ったり発言内容に不自然な部分がないか確認してもらったり政治や国の文化について意見を交わしたりしました。私は会話をあまり得意としていなかったため、タンデムの時間はドイツ語の間違いを気にせず話すとても良い機会でした。おかげで完璧ではなくても相手に理解してもらえるように整理し、的確に話そうとする姿勢を身につけることができました。また日本語を教えるという経験も初めてだったため試行錯誤の連続でしたが、助詞や形容詞の意味を考えた漢字の部首を覚えたり映画を観たりして一緒に勉強しました。私はこれまで、コミュニケーションに自信がないことから国際交流活動にあまり積極的ではありませんでした。しかし話してみると自分と似た考えを持つ人も多く、また全く新しい考え方を知ることができ、今後も遠距離ではあるけれど付き合っていきたいと思う友だちができました。

スポーツコースも充実しており、私はヨガとトランポリンのコースに後期から毎週参加しましたが、グループと一緒に体を動かすことは、仲間意識を高める効果があると感じました。

また環境のテーマについては、連邦政治教育センターから関連する資料を取り寄せたり、統計局に行ったり、フライブルクの先進的な地域を訪れ、エコセンターの方に話を伺ったりしました。卒業論文のテーマについても情報を集めました。日常生活ではごみの分別は徹底しており、生活ごみも日本での生活よりもか

なり減りました。使えそうな不要なものはよく道路に「ご自由にどうぞ」と置いてあったり、フリーマーケットも大学の食堂や公園、駅の倉庫などでよく開かれていたり、物を大切にすることを私も見習おうと思いました。一番参考になったのは毎日のニュースで、原子力や風力、ディーゼル車の問題など様々な問題を抱えていることが分かりましたが、ドイツは環境面でも率先して行動し、ヨーロッパを率いているように感じました。

後期は二か月ほど体調を崩してしまい、病院に何度も通った時期がありました。ドイツ語の会話に慣れてきたころではありましたが、病状を細かく伝えるのは難しく、またドイツの医療システムが日本とかなり違っていたため戸惑うことも多かったです。ドイツでは珍しいことではないそうですが、病院の予約が三か月先まで埋まっていたり、原因はストレスや運動不足だと言われるだけで検査や薬も無しに帰されたりすることが多かったため、孤独な戦いのように感じられましたが、今となってはドイツの病院の仕組みを知る良い機会だったかなと思います。

住んでいた寮はハイデルベルク旧市街の真ん中にあり、図書館まで徒歩一分ほどの立地の良い場所でした。そこは五人で生活するタイプの寮で、シャワーやキッチンを共同で利用しました。他の四人が全員ドイツ人だったため普通の会話についていくことがしばらくの間大変困難で、夕ご飯を一緒に食べていても何の話なのかさえ分からないこともあり悔しい思いをすることが多かったです。しかし春ごろからは完璧に理解はできなくても話を振られたら答えられるようになり、また会話の意図も分かるようになりました。皆、専攻は様々で日本のことをほぼ知らない人が多かったため、日本の文化を紹介したり食べ物を試みに食べてもらったりと良い思い出になりました。

春休みは北ドイツで二週間、ホームステイをしました。小さな子供が三人いる賑やかな家庭で、子供の接し方には最初は迷う部分もありましたが、モータージェットから旧市街の景色を見せてもらったり、庭でバーベキューをしたり、一緒に折り紙をしたりと楽しく過ごさせていただきました。幼稚園や小学校を訪問し、またご夫婦に話を聞き、ドイツの育児環境、労働環境の現状について学びました。家庭の中では、普段大学では経験できないことがたくさんありました。

週末やクリスマス休暇などはドイツ国内、また近隣の国へ旅行に行きました。これまでの海外経験はほぼないに等しい状態だったため、行く先々でトラブルにあうこともしばしばありましたが、慣れてくると前もって予防し、準備を入念にするようになり、新しい土地を楽しむことができました。

全体を通して一年間のドイツ、ハイデルベルク大学での留学は語学力向上、国際理解など多方面において有意義で、かけがえのない経験ができました。今後の大学での専門分野へのモチベーションも高まりました。就職活動や今後の人生にも生かしていきたいと思います。

これから留学する人に対しては、完璧を求めずに、勉強に対してあまり負担に感じずに、迷ったらとやまず外に出てみることを言いたいです。現地の人との会話の機会も増えますし、何気ない景色にも学べることはたくさんあると感じました。